京都府丹後地域等における地域公共交通活性化・再生総合事業
（「分かりやすく、使いやすい公共交通ネットワーク実現会議」のうち北近畿タンゴ鉄道関係分）

20～22年度

利用者の視点に立って、北近畿タンゴ鉄道（KTR）や丹後海陸交通バス等の「ダイヤ」、「運賃」、「駅・停留所」、「車両」、「情報提供」、といった交通システムの基礎的な部分を改善することにより、全ての人にとって「分かりやすく」、「使いやすい」、面的な公共交通ネットワークを実現することを目的とする。

【分かりやすく、使いやすい公共交通ネットワーク実現会議】

宮津市、京丹後市、与謝野町、伊根町、豊岡市、福知山市、舞鶴市、京都府、北近畿タンゴ鉄道、バス・タクシー事業者、旅行会社、京都府警、道路管理者、有識者、商工・観光関係、住民代表、国（オブザーバー）、JR西日本（オブザーバー）

事業の概要（22年度）

①駅活性化事業

住民と協働した駅への花植栽運動、駅スロープ設置

21,303千円　168千円

峰山駅

栗田駅ほか

②企画列車運行　807千円

KTRを利用したキャラクターショー観覧列車

ゴセイジャーショー

③パーク＆レール事業

駐車場P＆R利用券発行、駅前駐輪場等の整備

44,150千円

宮津駅
峰山駅

④利用啓発事業　957千円

バスKTR・エコファミリー実施

啓発ポスター等作成

⑤情報提供事業

総合交通マップ・時刻表の作成、KTRで行く京丹後の旅キャンペーン

4,269千円

⑥その他（バス・船舶事業）

バス実証運行等　31,242千円

弥栄網野砂丘線等

航路情報提供、桟橋整備　6,880千円

丹海一の宮駅、KTR天橋立駅

22年度 導入へのプロセス

地域住民と協働して植栽する駅花いっぱい運動や、スローガン題字を地元高校書道部に協力いただいた啓発ポスター作成など、公共交通を支える地域主体との連携を意識して事業企画。

当初の取組開始にあたって、参画者の実現過程イメージを容易にするため、交通システム改善課題を「ダイヤ」「運賃」「駅・停留所」「車両」「情報提供」の基本要素に仕分け、更に着手時期を短期、中長期、将来と着手時期を分類するなど工夫。

これまでの取組等で築いた密接な関係のもと、地域の鉄道事業者・バス事業者、全沿線市町のほか、小学校とも連携した取組エコファミリーを、地域で一体となって初めて展開。

実現会議での総合事業を活用した取組の他、KTR自身、沿線市町とKTRが連携した取組を複合的に実施。（サイクルトレイン、観光と連携した語り部列車の催行、定期券購入者への優待サービス等）

22年度 事業の効果

駅の植栽に地元小学生、サッカークラブ、女性団体など100人以上が参加し、取組駅を拡大して実施することにより、住民のマイレール意識の高揚の効果大。

マイレール意識の高揚＜花いっぱい運動、企画列車＞

企画列車では、ファミリー向けに夏休みに実施するキャラクターショーの企画として定着したこともあり、前年度比1.8倍の約450人と、定員300名を超える参加者がKTRを利用して参加され、親子連れに大変好評。

地域の多様な主体と連携＜バスKTRエコファミリー＞

「エコファミリー」の合言葉で、大人一人につき小学生2名まで運賃が無料となるエコファミリーの取組では、KTR、バス、全ての沿線市町が一体となった初の広域的取組となった。小学校から児童を通じて各家庭へ周知する効果的な手法のもと、11月の土日祝（10日間）で各路線延べ400組のグループが利用。短期的な利用促進のみならず、家族で環境や交通について話し合う契機として位置付け、取組の浸透により将来にわたる効果が期待。

利便性の向上＜駅スロープ、P＆R、バス実証運行＞ と 情報提供＜総合時刻表、利用啓発、航路＞

駅スロープの設置により車椅子利用者等の利便が大きく向上。また、駅前P＆R実施や駐輪場整備のほか、総合時刻表マップによる情報提供、啓発ポスター、鉄道と航路相互の乗継情報提供板の設置等により、利用者利便は着実に向上。

次年度以降

地域団体等の地域の生活単位に働きかけ、地元が一体となった取組を失敗をおそれずに実施

22年度の輸送実績は、KTRは前年度比102%、丹後海陸交通上限200円バスで111%と、地域公共交通全体への波及効果を狙って取り組んだ個別事業の展開が、成果としてあらわれている。

これまでの取組を契機として、例えば、花いっぱい運動では、住民による自律的な植栽維持管理につながり、また、実現会議の取組地域が拡がる中で、新たにKTR、バス、沿線全市町、小学校が一体となったエコファミリーの取組に至り、今後、こうした地域の生活単位に働きかけながら、地元が一体となって主体的に公共交通を盛り上げていける取組を検討。

なお、この3年間では、総合事業実施前と比較すると、KTRは定期利用者数が108%とマイレール意識の醸成の効果が見られ、また、丹海バスは上限200円バス全体で156%と着実な成果。

KTRに関しては、高速無料化実験以降、観光利用をはじめとする定期外利用者が明らかな減少傾向を示す厳しい状況にあり、観光面での集客を維持・回復するアピール策が課題。